海を越えて交流深まる

少年少女カンボジア国際交流

少年少女カンボジア国際交流事業で1月22～25日の4日間、カンボジアの学生3人が市を訪れ、子どもたちと交流を深めました。

訪れたのは、サトさん（17歳）、デュオン君（18歳）、テップ君（18歳）の3人。彼らは内戦で両親などが負傷したため、カンボジアの村を支援する会（倉敷市・村田みつお代表）が運営する自立村で生活。自立に向け、レストラン学校などへ通っています。

寒風陶芸会館で、土ひねり。デュオン君（左）とテップ君（左から2人目）も真剣です

今城小学校の児童と大縄跳びを楽しむサトさん（左から5人目）

22日、ホストファミリーの皆さんと、寒風陶芸会館（牛窓町長浜）で土ひねりに挑戦し、コップや皿などを作りました。

24日、今城小学校を訪れ、図書室に案内されると本を興味深げにめくり、「カンボジアにはない」と驚きを隠せない様子。児童と大縄跳びやドッジボール、合奏などで交流しました。質問タイムには、児童から「カンボジアにはどんな食べ物があるの」「どんな動物がいるの」「日本をどう思うか」などの質問が相次ぎました。言葉についての質問では、サトさんが「おはよう」などのあいさつを黒板にクメール語と日本語で書いて読み、児童らが復唱。給食も一緒に食べました。

少年少女カンボジア国際交流事業は、子どもたちに他人を思いやる心やグローバルな考え方を身に付けてもらおうというもので、旧邑久町が、3年前から毎年、町内の小・中・高校生をカンボジアに派遣。今年初めてカンボジアから学生を招き交流しました。

身近に感じた韓国

DBOCが料理教室

国際交流を推進する会DBOC（佐藤悦子会長）が1月23日、徐在蘭さんを講師に迎え、邑久保健センターで韓国料理教室を開催し、市内の24人が参加しました。

参加した皆さんは、徐さんの説明を聞いた後、海鮮チヂミとキムチチヂミを作り食しました。具材が異なるものの、チヂミは日本のお好み焼きと似ており、「簡単に作れていい」と好評。わきあいあいと調理も進み、「料理づくりを通して、韓国が見近に感じられる気がします」と岡本加代子さん（51歳・邑久町尾張）は話していました。

おいしいチヂミを食べながら会話も弾みます

地域の生命・財産守る

400人が臨んだ市消防出初め式

市消防出初め式が1月16日、邑久町公民館で開催され、消防団員ら約400人が出席。

新入団員に辞令が手渡され、功労のあった浦上次文副団長（59歳・長船町磯上）に岡山県知事表彰の功労章をはじめ61人に表彰状が授与されました。

今田勝消防団長（61歳・邑久町大窪）が、「14分団、団員539人は、地域の奉仕者として、あらゆる災害から生命と財産を守るべく、さらに精進します」と決意を述べました。

わたしたちは、大勢の消防団員の皆さんに日々守られて生活しています。火事など出さないよう、一人ひとりが防災意識をもつことが大切です。

背筋を伸ばし、真剣な表情で式に臨む消防団員の皆さん

まちの魅力を体験する

ふるさと「食」の再発見

ふるさと「食」の再発見ツアーが1月29日、長船地域で開催され、岡山市などから11組24人の親子が参加しました。これは、中国四国農政局が、地元食材を使用した料理実習と農業体験を通して、食や農業の大切さ、農村の持つ魅力を再発見してもらおうと企画したもので、手打ちうどん作りや麦踏み体験・いちごハウスの見学などの農業体験をしました。

大倉秀千代さん（52歳・長船町福岡）からうどん作りの説明を受け、手打ちうどんを作った参加者の沖野亜希子さん（10歳・岡山市）は「全部を楽しみに参加しました。伸ばすところとか、切るところが難しかったけど、うどんの出来は上出来です」と楽しそうに話しました。

楽しそうにうどん作りに挑戦する参加者の皆さん

押すな押すなの大盛況！

かきまつり

邑久町漁業協同組合主催のかきまつりが1月30日、同組合広場で開催されました。当日は、市内外から大勢の皆さんが会場に詰め掛け、この日早朝に水揚げされた殻付きカキやむきカキなどを買い求めようと、長蛇の列を作りました。

会場にはいろいろなコーナーがあり、カキむき体験に挑戦する人、千円でバケツに殻付きカキを山盛りにする人など、さまざまな光景が見られました。

カキの販売だけでなく、焼きカキの試食、漁協女性部手作りカキフライも大盛況で、カキのみそ汁は無料で振る舞われ、来場した人々は温かいカキ料理で冷えた体を温めていました。初めて参加した平田和也くん（8歳・総社市）は「カキフライがとてもおいしかった。また来年も来たいです」と話しました。

「なかなかうまくいかないね」とカキむきに挑戦